

京都府公衆浴場入浴料金審議会（令和5年度）の議事要旨

- 1 開催日時 令和5年8月1日（火） 午後1時30分から午後3時まで
- 2 場所 京都ガーデンパレス 2階「祇園」の間
- 3 出席者 ※一部、リモート参加

【審議会委員】

木下会長、青木委員、浦辻委員、奥田委員、田中委員、田野委員、中井委員、細井委員、増永委員、松村委員、吉本委員（計11名、会長以下五十音順）
（欠席：風間委員、窪田委員）

【事務局】西村文化生活部副部長、小林生活衛生課長ほか生活衛生課員

【オブザーバー】篠崎京都市医療衛生企画課担当課長

【傍聴】1名

【報道機関】1社

4 議事

入浴料金の統制額について

- ・一般公衆浴場数及び一般公衆浴場入浴者数の推移
- ・入浴料金統制額の推移
- ・一般公衆浴場に対する助成制度
- ・令和4年公衆浴場業経営実態調査結果
- ・利用者アンケート結果

5 結果報告及び審議の内容

令和4年に実施した統制額改定の影響について、経営実態調査や利用者アンケートの結果等をもとに議論を行った。今回の審議会では具体的な改定については触れなかったが、今後も物価の推移等を注視しつつ、中人・小人料金も併せて継続して審議することとした。

（1）利用者数の増加について

- ・料金改定によって利用客が減少する懸念もあったが、利用者が増えていてよかった。
- ・毎日来る常連客の他、京都市内では大学生をはじめとした若い人たちの利用も増えてきている。
- ・ここ数年のサウナブームの影響もあり、大学生が複数人でサウナを利用しに来る。
- ・ツイッターなどSNSで発信された情報にも利用者から反応があるなど、浴場の営業努力が実っている。
- ・大学生は、友人との飲食後や部活後によく入浴施設を利用するが、サウナ専門店は料金が高く、京都市内のスーパー銭湯は数が少ないので、より安価で手軽な銭湯を利用することが多い。
- ・京都市以外の府内では学生数が少なく、若い人の利用が京都市内ほど増えていない。

（2）経費の増加について

- ・40円改定して、収支均衡の不足分が補われたのはよかった。30円では足りなかった。
- ・改定した時からさらに燃料費や電気代があがっていて、40円の値上げでは足りなくなっている。さらに令和5年9月末で政府からの電気・ガス価格激変緩和対策の補助がなくなり、さらなる支出の増加が見込まれる。
- ・減価償却費や建物再調達費の算定において、実際は償却期間が終わった後も、お金がなくて建て直しができずに老朽化した施設をそのまま使っている状態を正しく評価できていないように思う。償却しきって経費計上できていないので一見黒字化したように見えるが、実態はそうではない。
- ・現在休業をしているところで、施設の老朽化などがネックになって、営業を再開するかこのまま廃業するかで迷っているところもある。
- ・人件費が減少しているが、銭湯経営している人のほとんどが家族経営であり、理由がわからない。